

砂防だより



波鮮やか（三保海岸）

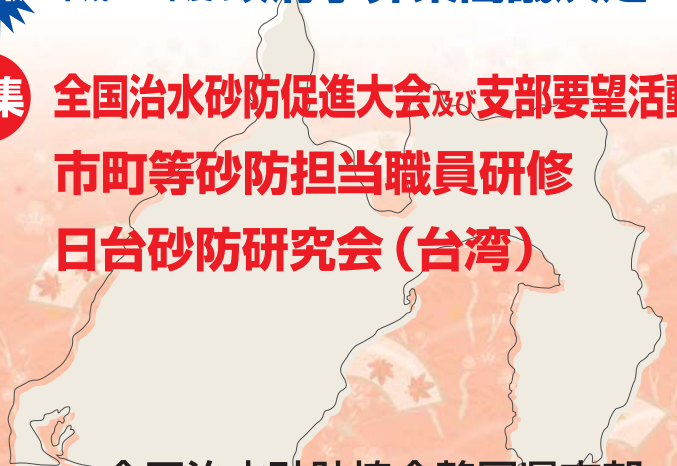
年頭の御挨拶	2
平成21年度政府予算案閣議決定	3
2008年しずおかの砂防10大ニュース	
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
市町等砂防担当職員研修	5
日台砂防研究会（台湾）	6
治山・砂防事業推進議員連盟の現地視察	8
平成20年の全国の土砂災害の状況	9
直轄砂防事業の紹介	
インフォメーション	10
お知らせ	12



平成21年度 **政府予算案閣議決定**



**全国治水砂防促進大会及び支部要望活動
市町等砂防担当職員研修
日台砂防研究会（台湾）**



全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 石川 嘉延

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日ごろから当支部の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、ゲリラ豪雨が県内でも多発したものの、台風の直撃はなく、例年50件ほど発生している土砂災害も、幸いにして17件と少なく、4年連続して人的被害もありませんでした。

しかしながら、全国に目を向けますと、6月の岩手・宮城内陸地震などの東北地方での地震や、東海・北陸地方を襲った局地的な集中豪雨により、大規模な土砂災害が発生しており、河道閉塞（天然ダム）・ゲリラ豪雨への対応など新たな課題も生じております。また、集中豪雨の頻発、連続雨量の増加などの気候変動も見られることから、いつ本県で大規模な土砂災害が多発してもおかしくない状況であります。

本県では、県民の約9%に当たる33万人が土砂災害危険箇所に住居しており、防災施設の整備が進められておりますが、住民の生命・身体を守るためには、早期避難も非常に重要となっております。

このため、土砂災害の危険性が高まった時に、県と気象台で「土砂災害警戒情報」を発表し、住民の自主避難に役立つよう、テレビ・ラジオ・インターネット等を通じて県民へ注意喚起を促しております。市町へは防災行政無線でも伝達しますので、会員の皆様におかれましては、適時適切に避難勧告等の発令の判断材料として是非とも活用されますようお願い申し上げます。

「土砂災害による死者ゼロの実現」「安心・安全日本一」を目指し、今年も砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭の挨拶といたします。

2008年 しずおかの砂防 10 大ニュース

土砂災害警戒情報を補足する詳細情報を一般公開

県と静岡地方気象台は、避難勧告等の発令に活用されるように土砂災害警戒情報を発表しています。平成20年は5回の大雨で発表しました。また、6月1日から土砂災害警戒情報補足情報を県ホームページへ掲載しています。今年も引き続き、これらの情報を活用し、適時適切な対応をお願いします。



土砂災害防止に関する絵画等コンクールで本県小学生が2部門で国土交通大臣賞を受賞

大臣賞6部門中、作文で静岡市立梅ヶ島小学校1年の杉山隆雅くんが、ポスターで浜松市立白脇小学校4年の鈴木絢女さんが受賞しました。このほか、3作品が事務次官賞を受賞しました。これらの作品は、全国の土砂災害防止月間などの啓発活動で紹介されました。



平成20年は、土砂災害が17件発生

全国では岩手・宮城内陸地震や局地的な集中豪雨により、大規模な土砂災害が発生しましたが、幸いにして、県内では17件と少なく、4年連続して人的被害もありませんでした。

土砂災害防止月間で広報

今年度は、急傾斜地パトロールの実施、各市町の広報誌、「知事のラジオトーク」などのマスメディア、文字情報などあらゆる機会を活用して、啓発に重点を置きました。

平成21年度 政府予算案閣議決定

速報

12月24日、平成21年度政府予算案が閣議決定されました。砂防関係事業の予算額は、対前年度比0.95の約1,480億円です。また、甚大な土砂災害への対応にあたって、国の応急対策に引き続き、一定計画に基づいた工事についても国自らが実施する、「直轄特定緊急砂防事業」の創設が認められました。

河川局所管砂防関係事業予算内示額【国費】

(単位:百万円)

事 項	20年度内示額(A)	21年度予算額(B)	対前年度比(B/A)
砂防(地すべり対策を含む)	135,847	128,889	0.95
急傾斜地崩壊対策	20,207	19,114	0.95
砂防関係事業計	156,054	148,003	0.95

注1) 道路関連社会資本分、特定治水及び剰余金等を含む。 注2) 計数は、整理の結果端数調整していることがある。

注3) 上記計数以外に、総合流域防災事業(統合補助金)の内数として砂防関係事業がある。

〈参考〉

総合流域防災事業	56,023の内数	56,284の内数	(1.00)
----------	-----------	-----------	--------

注) 総合流域防災事業には、砂防関係事業の他河川事業・ダム事業も含まれる。また新たに認められた「総合流域対策費(直轄)」も含まれる。

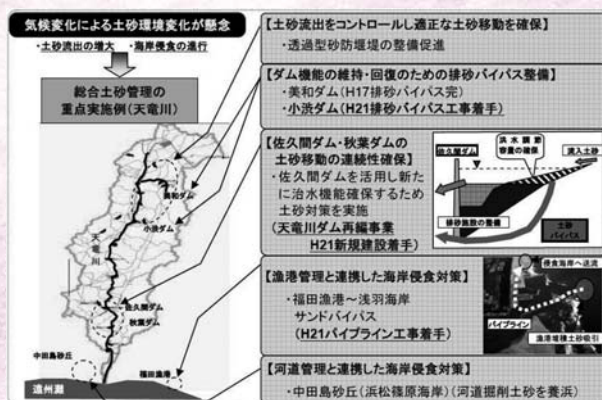
砂防関係新規制度等

◎直轄特定緊急砂防事業の創設

その他の新規・重点事項等

◎気候変化に適応した総合的な土砂管理の推進

今後5カ年間で天竜川、安倍川等の問題が顕在化している12流砂系ほか、約190箇所において土砂の流れの改善の取組を重点的に推進する。



県内2団体が「土砂災害防止功労者」(国土交通大臣表彰)を受賞

全国受賞の7つの個人・団体のうち、「富士宮市立富士宮第3中学校」、「静岡県立御殿場南高等学校」がW受賞しました。



砂防協会会員が十勝岳火山砂防事業等を視察

8月21～23日、原田団長(袋井市長)以下23名が参加し、火山砂防の先進地十勝岳(北海道)を視察しました。



土砂災害警戒区域の指定が倍増

平成18年度末で682箇所でしたが、19年度は756箇所を指定し、累計で1,438箇所となりました。

土砂災害「全国統一防災訓練」を県内29市町で実施

前年の約3倍の市町、約2,000人が参加し、土砂災害警戒情報の伝達訓練や避難勧告の発令、避難訓練を行いました。

「童子沢川親水公園」(島田市)が景観賞を受賞

(P9参照)

日台砂防研究会(台湾)へ県職員が参加

(P6参照)

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表しておりません。

「全国治水砂防促進大会」開催される

11月27日に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で（東京都千代田区）で開催されました。

当日は全国から1,123名が参集し、当支部からも18名のご出席をいただきました。大会に先立ち、(株)テレビ長崎・佐世保報道部記者の植田禎子さんより「普賢岳噴火災害・長崎豪雨災害から学んだこと～マスコミとどう向き合うか～」と題して特別講演が行われました。

大会は綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、西銘恒三郎国土交通大臣政務官からの祝辞に続き、国土交通省中野泰雄砂防部長より「砂防行政の動向について」と題した講演をいただいた後、会員代表者として、宮城県栗原市・佐藤勇市長と岐阜県揖斐郡揖斐川町・宗宮孝生町長による意見発表が行われました。最後に、小林則幸副会長よりが決議を發表し、満場一致で採択されました。

大会終了後、当支部会員の皆様により、地元選出国議員と国土交通省へ、平成21年度予算の確保に向けて要望活動を行いました。お忙しい中、ご出席をいただいた会員の皆様には心から御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶

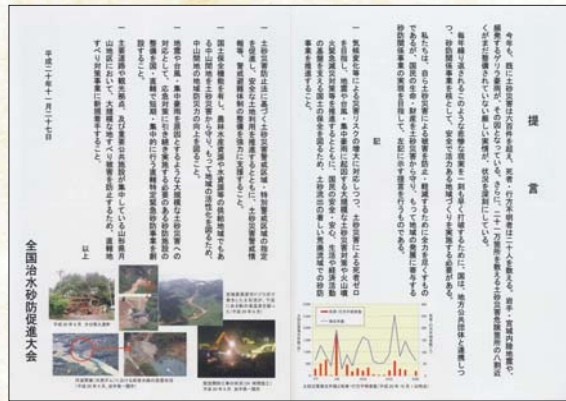
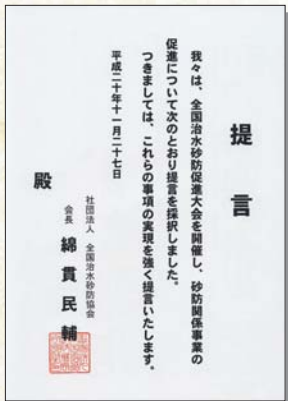


植田禎子さんの講演



西銘国土交通大臣政務官の祝辞

財全国治水砂防協会の提言



静岡県支部の要望

1. 直轄砂防事業の推進

- ・富士山の総合的な活火山対策
- ・富士山砂防事業：大沢川源頭域調査工事、大沢川中間床固工
- ・安倍川砂防事業：大谷山腹工、三河内川右支川ウラの沢砂防堰堤
- ・狩野川砂防事業：日向地区砂防えん堤群、丸の沢砂防えん堤

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- ・由比地区直轄地すべり対策事業

3. 県による土砂災害防止施設（砂防、地すべり対策、急傾斜地崩壊対策）の整備とソフト対策の着実な推進への支援・協力

- ・東海地震に備えた防災施設の緊急的な設備
- ・火山噴火災害も想定されている富士山周辺地域の土石流対策の強化
- ・土砂災害防止に基づく「基礎調査」の推進
- ・安全で迅速な避難のための土砂災害対策の推進

参加市町(17市町18名)

袋井市、伊豆市、伊豆の国市、牧之原市、掛川市、菊川市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、函南町、川根本町、森町、伊東市、島田市、裾野市、小山町



神奈川県砂防事業で現地研修

市町等砂防担当職員研修

11月6・7日、市町等砂防担当職員研修を神奈川県で開催し、28名の参加がありました。

初日は、葉山町にある湘南国際村にて研修を行い、砂防室から加納室長、廣瀬急傾斜地保全係長、村松砂防係長、齊藤主査が各事業について説明した後に、活発な意見交換が行われました。

2日目は、神奈川県砂防課の協力を得て下山口B急傾斜地崩壊対策事業、堀内地すべり防止事業、江の島B地区急傾斜地崩壊対策事業、水無川砂防環境整備事業を視察しました。

参加者からは、「壁と建物の間が狭いことや、静岡県とは違った工法を行っていること、神奈川県ならではの現場の特徴が知ることができた」など、多くの意見が寄せられました。



研修内容

11月6日 ● 砂防に関する講習（葉山町）

- ・土砂災害の発生状況について
- ・砂防関係事業（ハード対策）について
- ・砂防関係事業（ソフト対策）について
- ・市町からの質問

11月7日 ● 現場研修

- ・下山口B急傾斜地崩壊対策事業（葉山町）
- ・堀内地すべり防止事業（葉山町）
- ・江ノ島B急傾斜地崩壊対策事業（藤沢市）
- ・水無川砂防環境整備事業（秦野市）

参加市町・土木事務所

静岡市、浜松市、沼津市、熱海市、島田市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、湖西市、伊豆市、菊川市、長泉町、小山町、熱海土木、静岡土木、島田土木、袋井土木、浜松土木、事務局

下山口B急傾斜地崩壊対策事業（三浦郡葉山町下山口内）

平成16年台風22号により斜面が崩壊し、平成19年5月に2.59haを区域指定し5億4100万円かけて事業を行いました。

静岡県の斜面改良の工法は法枠工が一般的ですが、神奈川県では受圧盤タイプのアンカー工が汎用工法とのことです。



水無川砂防環境整備事業

水無川は普段は水のない川です。いったん雨が降ると急激に水かさを増すため、昭和53年に「水無川環境整備事業」に着手しました。

水無瀬橋から戸川堰堤の約3kmを高水敷と低水敷に段差を設けず、緩傾斜護岸を整備し、水辺に親しみやすいように配慮されています。



参加者の声



■ 浜松市土木部河川課 小野 洋佑さん

今回の砂防研修に参加し、土砂災害を防止するためには、ハード整備と共に地域との連携、警戒避難体制の整備、情報収集や提供体制の整備などのソフト事業の重要性を再認識させられました。

また、砂防事業の現場施設を実際に見学することで、土砂災害の恐ろしさや規模の大きさ等を実感することができました。市では砂防事業のハード事業を手がけることがないため、砂防事業の施設を見学できたことは大変有意義でした。

■ 湖西市道路河川課 加藤 敬さん

砂防関係業務に携わるようになってからまだ日が浅く、知識不足なこの時期にこのような研修に参加出来て大変勉強になりました。土砂災害防止法に関しては、これからはソフト対策に重点が置かれるようになるとのことなので、今回の研修を今後の業務に役立てたいと思います。事務局のみなさんには大変お世話になりました。最後に、現場を視察するということが一目瞭然ととても印象に残るので、今後もこのような研修が続けられることを期待しています。

【報告】2008 日台砂防研究会

土砂災害対策スタッフ 主査 大野正敏

(社)全国治水砂防協会と台湾の中華水土保持学会は、1989年から毎年相互訪問することにより、現場に立脚した砂防技術の交流として日台砂防共同研究会を行っています。

10月2日に行政院農業委員会水土保持局が台湾・南投市において、「生態系の復元・保全と砂防に関するシンポジウム」が開催されることとなり、都道府県では、当県と秋田県が参加しました。

当初、訪台の日程は9月28日から10月4日までの1週間を予定していましたが、2日間で1,200mmの豪雨を台湾にもたらした台風15号の影響により、1日遅れでの出発となりました。

台湾では主に中部を中心に視察等を行いました。総じてどこに移動しても車の窓から見えるのは、台風15号も含めて9月に入って毎週のように来襲した台風により、山肌はえぐれ、谷の出口からは土石流が発生し、河川内には大量の土砂が堆積した風景でした。案内をしていた逢甲大学の方も、大規模なもの以外はいつの台風による被害か特定するのは難しいとも話していました。

日 程

- 【9月29日】 移動日(成田国際空港→桃園国際空港)
- 【9月30日】 台中市 中部サイエンスパーク
(広域開発地における調整池の視察)
豊原市 石岡ダム(1999年台湾大地震被害視察)
- 【10月1日】 台中県 9.21地震博物館視察
雲林県 華山砂防現場視察
- 【10月2日】 南投市 水土保持局にてシンポジウムの開催
台中県 廬山災害現場視察
- 【10月3日】 南投県 日月潭、大観発電所視察
- 【10月4日】 移動日 (桃園国際空港→成田国際空港)



現地視察

10月2日シンポジウム終了後、台中県の廬山に車で向かいました。台風通過後5日が経過し、ようやく開通したということで、200mごとに土砂崩れが発生しているような状況でした。

この廬山という地区は、台湾の中でも有名な温泉街でしたが、今回の台風15号により上流域から約2,000万³mの土砂が流出し、河床が6メートル程度上昇、20m程度であった川幅が約70mに拡大、ホテルなども大半が土砂に埋もれてしまい、街中が壊滅的な被害を受けました。視察した際も、軍が住家やホテルなどから僅かに残った家財道具を搬出しており、土砂災害の発生から5日が経過しても依然生々しい現場状況でした。



廬山の土砂災害現場状況(台中県)

調査団メンバー

団長 松井 宗廣/財砂防・地すべり技術センター理事

清水 孝一/国土技術政策総合研究所砂防研究室主任研究官

阿部 宗平/社全国治水砂防協会事業本部次長

小松 武/秋田県河川砂防課副主幹

大野 正敏/静岡県砂防室主査

シンポジウム

10月2日、水土保持局内会議室で開催されたシンポジウムでは以下の発表が行われました。

- | | |
|-------------------|---------|
| ・水土保持局業務報告 | 王 晉倫 氏 |
| ・台湾における土石流対策 | 陳 振宇 氏 |
| ・ソイルセメント工法について | 松井 宗廣 氏 |
| ・自然と共生する砂防事業の取り組み | 清水 孝一 氏 |
| ・秋田県における環境砂防の紹介 | 小松 武 氏 |
| ・静岡県における環境砂防の紹介 | 大野 正敏 |

王氏の発表では、水土保持局は農業委員会内の組織であることから、土砂災害防止施設の整備にとどまらず、茶店の誘致や特産品の整備等の農村再生計画も併せて実施しているという、印象的な説明がありました。地域活性化あるいは過疎化対策の面から、日本でも非常に参考となる例だと感じました。

また、陳氏の発表では、土石流の警戒雨量を250～550mmと定め、基準に達した場合は強制的に住民を避難させるとの説明がありました。

今回の台風15号では甚大な被害を受けたにも関わらず、死者数が2名だったのは、そのような警戒避難体制が寄与した結果だと思いました。

日本からは、松井氏がソイルセメント工法の種類、施工方法、実際の施工例などを紹介し、続いて清水氏が日本における生態系に配慮した砂防設備の施工例などを紹介しました。小松氏と私は秋田県と静岡県における環境砂防について説明を行いました。静岡県藤枝市(旧岡部町)の木和田川等により事例紹介し、また併せて2009年開港予定の富士山静岡空港についてもアピールしました。

■ 終わりに

台湾で廬山のような生の災害現場を見られるとは思っていなかったため、調査団一同にとっては望外の勉強になりました。また、そのような甚大な被害により多忙を極めているにも関わらず、今回の訪台を「有朋自遠方来、不亦乐乎（朋あり遠方より来たる、また楽しからずや）」の精神で快く受け入れていただいた中華水土保持学会を始め、水土保持局、逢甲大学等の関係者の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

最後に台湾に行って分かったことが二つあります。一つは、台湾の土砂崩壊規模は日本と比較して圧倒的に大きいものであること。もう一つは、台湾の人々は非常に愛すべき方々ばかりであるということ。謝謝。



シンポジウムの様子



シンポジウム終了後集合写真(右から2番目、筆者)



華山砂防現場(雲林県)

治山・砂防事業推進議員連盟が砂防事業を視察

12月17日に、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮せる社会基盤の整備を目標に、砂防事業の推進を目指す「静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟」一行が、裾野市の砂防事業等の現地視察を行いました。

今回の視察には、会員70名のうち24名が参加し、平成19年9月の台風9号により土石流が発生し、住宅2戸が損壊する被害が生じた大場川の災害関連緊急砂防事業の状況などを視察しました。

あいにくの雨にもかかわらず、熱心に現場の状況を見ていただき、残存型砕工法や除石によるコスト縮減への質問が出されるなど、数多く残る危険渓流に対して、財政厳しい時にあっても治山・砂防の土砂災害防止事業予算確保が非常に重要であると、再認識していただきました。

視察地

- 三島駅集合
- ➔ 御殿場深沢治山工事・治山(緊急)永尾工事
- ➔ 大場川災害関連緊急砂防事業
- ➔ 三島駅解散



大場川(裾野市市ノ瀬)にて

参加議員24名(敬称略、順不同)

奥之山 隆(自民)	山田 誠(自民)	前林孝一良(公明)
前沢 侑(自民)	堀江 龍一(自民)	赤堀佐代子(自民)
野澤 義雄(平成21)	高田 泰久(平成21)	大場 勝男(自民)
杉山 盛雄(自民)	原 文雄(平成21)	小楠 和男(自民)
豊岡 武士(自民)	池谷 晴一(平成21)	渥美 泰一(自民)
宮沢 正美(自民)	植松 明義(平成21)	中谷多加二(自民)
込山 正秀(自民)	桜町 宏毅(平成21)	岩瀬 護(平成21)
須藤 秀忠(自民)	高田 好浩(公明)	阿部 時久(公明)

童子沢親水公園が「第一回県景観賞」を受賞

11月20日、「第一回県景観賞」(美しいしずおか景観推進協議会主催)において、「童子沢親水公園」(島田市)が、優秀賞(県建設業協会賞)を受賞しました。

この賞は、県土全体の景観を守り育てることを目的として、都市景観、自然、農山漁村など幅広い景観を対象に、景観づくりに取り組む地区を表彰するものであり、本年度は87地区91件の中から、最優秀賞1地区、優秀賞8地区が受賞しました。

また、最優秀賞の県知事賞を受賞した、「わさびとお茶の里有東木」(静岡市葵区)では、昭和57年の災害により砂防災害関連事業が実施されていますが、現在では清流が流れ景観にとけこんでいます。



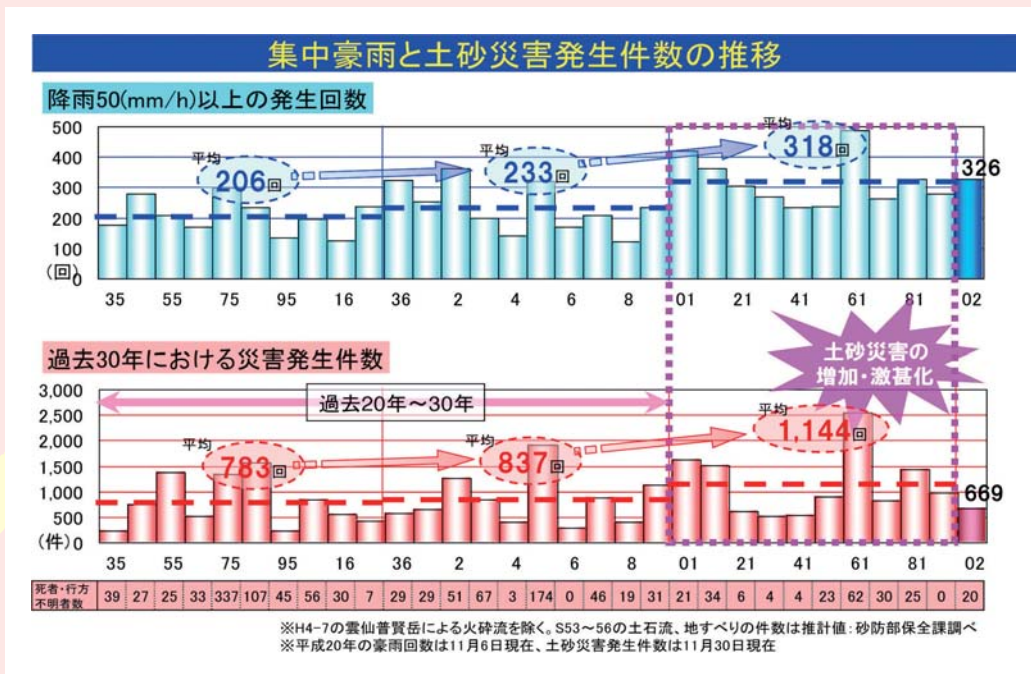
童子沢親水公園

平成20年の全国の土砂災害の状況

昨年は、台風の直撃はなく、幸いにして17件と少なく、4年連続して人的被害もありませんでした。しかし、東海・北陸地方を襲った局地的な集中豪雨などにより、大規模な土砂災害が発生しました。

集中豪雨と土砂災害は密接に関連しており、近年、下図のように集中豪雨の頻発化の傾向が見られます。これらの気候変化から、土砂災害の頻発化、同時多発的な土砂災害の増加、これまで大雨に見舞われていなかった地方への拡大、避難の時間短縮、崩壊土砂量の増大など、土砂災害の増加・激甚化が懸念されます。

このように、いつ本県で大規模な土砂災害が多発してもおかしくない状況です。今年も引き続き、土砂災害から住民の命を守るために、「日頃の備え」と「早めの避難」をお願いします。



直轄砂防事業の紹介

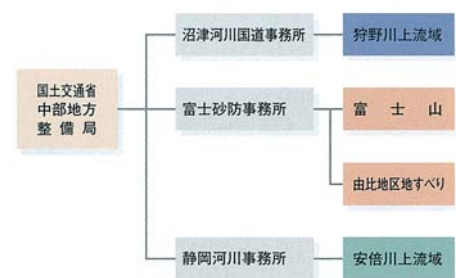
県内では、狩野川上流域、富士山、由比地区地すべり、安倍川上流域の4箇所で直轄砂防事業が行われています。

一般的に、砂防指定地や地すべり防止区域の管理、砂防や地すべり防止工事の施行は、都道府県知事が行うこととなっていますが、工事の施行について、

- ①他の都道府県の利益を保全するために必要なとき、
 - ②利害関係が一つの県に限らないとき、
 - ③工事が至難であるとき、
 - ④工事費が至大であるとき
- などの場合には国が直轄事業を実施します。

なお、この場合にも、県は工事費の1/3を負担していますが、その額はここ5年平均で19億円弱であり、直轄事業においても県は大きな役割を果たしています。

次号からは、それぞれ各事業の「歴史」や「直轄とする理由」がわかるように紹介していきます。



国土交通省直轄砂防事業施行位置図

東海地区直轄事務所長・砂防担当課長会議を開催

11月17日、東海地区直轄事務所長・砂防課長会議が静岡市内で開催されました。会議には、国土交通省砂防部砂防計画課の西山砂防計画調整官、保全課の吉柳課長補佐、中部地方整備局の石尾課長補佐をはじめ、東海地区の直轄事務所長と各県砂防主管課長が出席し、災害時の危機管理（対応）能力の向上の取り組み、大規模土砂災害への対応、土石流対策等砂防工事の効率的実施などについて、活発な意見交換が行われました。



会議の様子

土砂災害防止法に関するブロック会議・全国会議が開催される



会議の様子

11月4日、中部ブロック土砂災害防止法検討会議が愛知県自治センター（名古屋市）で、11月21日に土砂災害防止法全国検討会議が三田共用会議所（東京都港区）で開催されました。

全国検討会議には、中野国土交通省砂防部長はじめとする本省砂防部、各地方整備局、各都道府県の担当者が参加し、「土砂災害警戒区域・特別警戒区域の指定促進について」や「ソフト対策とハード対策の適切な連携について」等を議題に代表都道府県による事例発表の後、各県の課題などについて本音で議論しました。

砂防学会シンポジウムが開催される

10月15日・16日にかけて、第40回（社）砂防学会シンポジウムが、宮崎市で開催され、県内からは7人の職員が参加しました。

挨拶には東国原宮崎県知事が土砂災害対策の必要性について強く述べられ、シンポジウムでは、大規模土砂災害の予測とその対策についてパネルディスカッションが行われました。

また現地見学会では、平成17年台風14号により大規模崩壊が発生した別府田野川（宮崎市）の復旧状況を見学しました。



東国原宮崎県知事の挨拶

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議が開催される



現地研修会の様子（三重県領内地すべり地区）

10月29・30日にかけて、東海4県地すべり・急傾斜地担当者会議が三重県松阪市で開催されました。29日の会議では、国土交通省保全課の川崎地すべり係長をはじめ、東海4県の地すべり・急傾斜地担当者により、それぞれの事業の実施上の課題について活発な意見交換が行われました。また、30日の現地研修でも、地すべり・急傾斜地の現場で活発な意見交換が行われ、有意義な会議となりました。

平成20年度静岡県砂防・治山連絡会議を開催

12月18日、平成20年度砂防・治山連絡会議を静岡市内で開催しました。

会議には、国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防室・森林保全室の各機関が出席し、来年度以降予定されている砂防事業、治山事業が効率的に実施できるように個別に協議・調整を行いました。



会議の様子

砂防研究報告会が開催される

第21回（平成20年度）砂防研究報告会が、10月8・9日に砂防会館別館で開催され、関係機関から127人の参加がありました。分科会での討論、特別講演、砂防関係研究機関の概要説明、事例・調査報告、各分科会より討議結果の報告などがされました。第四分科会『大規模土砂災害に対する危機管理について』では、岩手・宮城内陸地震における緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を事例とする天然ダム対策と地震砂防などについて2日間（計5時間15分）に渡り討論をしました。

東海4県砂防担当者会議が開催される



徳山ダム見学の様子

11月12日・13日にかけて、平成20年度 東海地区砂防担当者会議が岐阜市の長良川会館で開催されました。

12日は、国土交通省保全課の大塚補助砂防係長を中心に砂防事業に関する考え方について議論を深めました。昨今の土砂災害に関する話題から、砂防えん堤の除石管理のあり方、コンクリート構造物の品質管理のあり方、砂防ソイルセメントの実施事例等の砂防構造物の設計に関わる詳細な話題にまで及びました。13日は岐阜県西部の揖斐川に沿って現場見学を行いました。東横山の災害関連緊急地すべり対策事業、池

田山麓周辺の9月2～3日の豪雨による被災状況や復旧などの説明を受け、土砂災害対策に対する理解を深めました。また、近隣の徳山ダムを訪れ、堤体を現地発生材によって施工したロックフィルダムの現場見学を行い、景観に配慮したダム工法について理解を深めました。

全国がけ崩れ対策協議会 研究発表大会が開催される

11月20・21日にかけて、全国地すべりがけ崩れ対策協議会第62回研究発表大会が福岡市で開催されました。国土交通省砂防部保全課の綱川補佐より「斜面行政をめぐる最近の話題」と題した講演が行われ、各県の担当者等から13件の発表が行われました。

本県からも、早川主任が「野本地区 急傾斜地崩壊防止施設 災害復旧事業について」と題し、6月29日に賀茂郡野本地区で発生したがけ崩れ災害の状況と対策について発表を行い、いずれの発表についても、活発な意見交換が行われました。



綱川補佐の講演

お知らせコーナー

第49回 砂防および地すべり防止講習会

砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員の実施並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時：平成21年3月12～13日
 会 場：砂防会館別館1階「利根」
 参加費：5,000円
 主 催：全国治水砂防協会 TEL (03) 3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054) 221-3042



- 支部活動予定
 - 2月 3日 静岡県砂防ボランティア協会
 - 5月 25日 静岡県支部通常総会（静岡市）
 - 6月 7日 土砂災害に対する全国統一防災訓練
 - 1～7日 かけ崩れ防災週間
 - 1～30日 土砂災害防止月間
 - 中旬 砂防フェスティバル
 - 8月 下旬 市町長等砂防事業県外視察
 - 11月 初旬 市町等砂防担当職員研修
 - 17日 静岡県選出国会議員への要望
- 協会本部活動予定
 - 3月 11日 砂防協会事務局員会議（砂防会館）
 - 13日 砂防および地すべり防止講習会（砂防会館）
 - 5月 19日 評議員会・参与会（砂防会館）
 - 20日 第73回通常総会（砂防会館）
 - 7月 東海地区市町村職員土砂災害対策研修会
 - 11月 16日 参与会（砂防会館）
 - 17日 全国治水砂防促進大会（砂防会館）

その他の行事

- 平成20年度
 - 10月 29～30日 東海地区地すべり急傾斜担当者会議（三重県松阪市）
 - 30～31日 2008火山砂防フォーラム（新潟県糸魚川市）
 - 11月 12～13日 東海地区砂防担当者会議（岐阜県岐阜市）
 - 27日 中部地区砂防技術研修会（三重県）
 - 12月 3日 富士山噴火を想定した緊急対応訓練（富士市：富士砂防事務所・静岡県）
 - 11日 第7回富士山火山砂防計画検討委員会（富士宮市）

【表紙写真】



波鮮やか 〈三保海岸〉
 黒田 善廣さん（静岡市）

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は、岩手・宮城内陸地震や、ゲリラ豪雨など、各地で大変大きな被害をもたらしましたが、本県では幸いにも大規模な人的災害に見舞われることがありませんでした。
 本年も土砂災害防止に向けて、皆様のお役にたつ、よりよい誌面づくりに努めてまいりたいと思っております。年頭にあたり、会員皆様方の御多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防室ホームページのアドレスに移転しました。お手数ですが、ブックマークの変更をお願いします。
 砂防室新HP：<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>